

◆特集◆バスケの街能代

「バスケの街づくり」を進めている能代市には、高校バスケットボール界の3大タイトルである全国高等学校総合体育大会、国民体育大会、全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会（ウインターカップ）で全国優勝58回を誇り、全国的に有名な秋田県立能代工業高等学校男子バスケットボール部（以下…能代工業バスケット部）があります。

日本人初のNBAプレーヤーで、昨年開幕したBリーグ初代チャンピオンの栃木ブレックス主将の田臥勇太選手を初めBリーグなどで活躍している多くの選手や、アテネ・リオデジャネイロオリンピックでは日本女子代表チームヘッドコーチとして指揮をとった内海知秀さん、元日本男子代表チームヘッドコーチの鈴木貴美一さんなどの指導者を輩出していることから「バスケの街能代」の由来になっており、平成元年度には、ふるさと創生事業の一環としてバスケの街づくり事業がスタートしました。昭和63年に全国から強豪校が集まり、能代カップ高校選抜バスケットボール大会が開催されています。

また、小学生のミニバス交流大会、指導者講習会の開催や、公園へのバスケットボールリングの設置、バスケ関連のシャッターアートや壁画アートなど、ソフト・ハード両面で盛り上げを図っています。

①第30回能代カップ高校選抜バスケットボール大会

今年は、5月3日～6日の4日間、男子は7チームの出場校が熱戦を繰り広げました。大会期間中は中学生、高校生、一般、能代市役所のボランティアに加え、今年は、能代地域おこし協力隊の野口亮太さんと青田竜之介さんがCMを作成したり、超速報を出すなど会場内外を走り回っていました。

元月刊バスケットボール編集長の島本和彦さんは前夜祭イベントとしてトークイベントの開催のほか、試合の戦評も書いていました。また、サプライズゲストとして、秋田ノーザンハピネットのアーリーナDJのチャーリーホイ（保泉久人）さんが試合前のメンバー紹介をしたり、記念すべき30回大会を盛り上げていました。



優勝した洛南高校（京都）



戦評を書く島本和彦さん

②バスケの街能代記念事業「能代工業バスケット部全国大会初優勝から50周年メモリアルイベント」

加藤廣志元監督のもと昭和42年の埼玉国体で初優勝を飾ってから50年及び能代カップ30回の節目を記念して、6月10日、11日にメモリアルイベントを開催しました。能代工業バスケット部の歴史を彩るOBが集結し、現役チームとOB選抜チームの試合などが行われました。

また、試合に先立ち、能代工業バスケット部の強化に使っていただきたいという趣旨で能代市に寄せられた「ふるさと納税」の寄附金を、齊藤滋宣市長から能代工業バスケット部後援会に贈呈しました。

会場内外で取材に御協力いただいた多くの関係者に感謝いたします。

59回目の全国優勝を目指し日々練習に励んでいる能代工業バスケット部に、能代市民としてエールをお送りするとともに、今後の活躍にも大きな期待をしています。

また、「能代市バスケの街づくり推進計画」の中で、バスケでみんなが元気になれる街を目指してさまざまな取り組みを行っています。今後も市民の皆さんを初め多くの方々の御支援、御協力をお願いします。

取材：落合範良 渡邊正人